

選外佳作の十二

トンボは何に乗つて行つ

たでせう

山 本 文 子

涼しい川の側で遊んで居りましたトンボは、ずーつこ向ふに、も一つ流れてゐる大きい川べりで遊んで居る澤山のお友達トンボの所に遊びに行き度くなりました。

まだ朝なので草の露もキラ／＼光つて、涼しいお風が吹いて居ります。おなかどすかない様に澤山御馳走をいたゞいてから、お羽根を真すぐに張つて、大きく息をして、元氣に飛び出しました。白い道がどこ迄も／＼續いて居ります。廻りの畑には胡瓜やトマトお茄子が美味しさをうに成つて居りますし、道には、可愛らしいお花が咲いて居ります。時々蝶々や虻に合ひました。

「お早やう」「お早やう」皆うれしうにご挨拶して飛んで行きました。

しばらく行きますとトンボは、お羽根が少しくたびれて來ました。何處かでお休みしませうかと思つて居りますと、後から大きい聲で「ヒーン」お馬が車を、ガラ／＼引いて來ました。

「丁度良い所へお馬さんが來た、あのお背中に止らせていたゞいたら、ひこりでに連れて行つて下さるでせう。」

ツイ止つたお背中は、廣くて軟らかい、そしてお日様に暖められてボカ／＼して居りました。トンボは、うれしくて珍らしくてお背中をあつちへ行つたりこつちへ行つたり大喜びでした。お馬さんは何だか自分のお背中がさつきからムズ／＼してなりません、ヒョイツ／＼しろを向くま「オヤ、僕の背中でトンボが遊んでゐる。」

そしてピク／＼動かしましたがトンボはまだ氣が付きません。餘りムズ／＼するので、あの太い尾を振つてサツ／＼拂ひました。

「おー痛い／＼」トンボはびつくりして飛び上りました。まあ何がぶつかつたのでせうと良く見てやつ／＼氣が付きました。

「あゝ痛い筈、あの太いシツボがあたつたのですもの。」

トンボは又飛び出しました。お日様が段々高くなつて、暑くなつて來ました。しばらく行き

ますミ、又うしろの方で大きい聲がしました。

「モーモー」

何が来たのでせう、さう 大きい牛さんが車を引いて来ました。トンボは又止り度くなりま
した。

「でもお馬さんの様に太いシツボがあるかしら、オヤ、モーさんは細いから大丈夫でせう」
ミツイミ止りました。お馬さんのお背中より廣くて、白と黒の模様がありました。牛さんは急
にムズ／＼して来ました。僕の背中に何か止つたらしいと思つてビク／＼と動きました
が、その内二、三度尾を振つたかと思ふと勢よくサーツミお背中にあてました。

「オーイタタ……」トンボはもうお羽根が折れたかと思ひました。

もうひこりて飛んで行きませう、でもトンボはそれは／＼くたびれました。歸りませうか
しら、でも川は小さく向ふに見えて来ました、暑くて／＼なりません。

するミ、又うしろから、

「プープー」車の四つ着いた、お窓のある、それは／＼早く走るもの、何でせう？さう自動車
が走つて来ました。

「オヤ自動車だ、おれに乘せていたゞいたら、もうすぐに行けるのに、でもシツボはないかし

ら

見るまゝ、シツボなぞ、どこにもありません、やつち安心して大きな乗合自動車の屋根に大急ぎでスレ／＼に止りました。緑色のツル／＼した、しつかりつかまつてないま滑つてしまひさうです。早い事／＼、トンボはうれしくてバンザーイミ云ひました。

川が段々大きく見えて來ました、オヤもう川に來ました。トンボは大急ぎで走つてゐる自動車の屋根から、飛び上りましたら、自動車はブーミ鳴らして、横の道に曲つて行きました。

「有難う自動車さん。」

遠いゝ所からトンボの來たのを見つけて、大勢が迎へに來て、「よく來て下さつた」を喜びました。

面白く遊んだり、澤山御馳走になつて夕方になつてからさつきの道の所迄送つていただきました。

歸へりには、トンボさんは何に乗つて歸つたでせう！